

# 政治の現場

## 民進党1年 ⑤

# 欠く求心力 迫る触手

6日、民進党内に新たなグループが誕生した。民主党と合流した維新の党系の議員23人のうち、党代表だった松野頼久衆院議員(56)が会長を務め、13人が参加した「創新会」(松野グループ)だ。松野は記者会見で、「民進党の中で、新しいものを生み出していく一助になれば、という思いで

今日スタートした。原点である行政改革を自分たちで進めていきたい」と語った。民進党に加わった維新の党系議員は一時最大の勢力を誇った。しかし、昨年9月の代表選後、江田憲司代表代行(60)に近い親執行部系と、松野らの反執行部系との路線の違いなどで分裂した。

6日の初会合では、「民主党を引きずったまま頭が切り替わっていない」「民党政権時代を批判されても『今は民進党だ』と言いつ返すぐらいの感覚を持ってもらいたい」など執行部への不満が相次いだ。一方、江田も近く維新の党系の議員たちを集めたグループに新たな名称を決めて、活動を活性化させる方針だ。

新たなグループ誕生により、党内の主要なグループの数は、離党届を提出した長島昭久・元防衛副大臣を中心としたグループを含めて12。大半は掛け持ちを認めているが、わずか約140人の国会議員が数人から20人程度のグループに細分化している。

グループ間の人間関係もぎくしゃくしたままだ。昨年9月の党代表選。前原誠司・元外相が出馬した際、前原グループにかつて所属し、その後も近い関係にあると考えていた細野豪志代表代行の支援が得られると前原らは期待していた。前原自身も

細野に直接支援を要請したが、細野は早々に蓮舫代表の支持を表明した。「今までさんざん世話になっておいて、協力しなかった。細野だけは許せない」前原グループの一人は、今なお不満を隠さない。一方、細野グループの議員は「細野が2015年の代表選に出馬した時、前原は最後まで明確に支持を表明しなかった。批判される筋合いはない」と冷やかな反応を示す。党再生を期待されて誕生した蓮舫体制になっても支持を伸ばせない中、党内には不協和音だけが目立ち、求心力は欠けたままだ。党幹部は、自嘲気味に語る。

「官僚出身者は政策以外関心はないという態度だし、執行部は野田幹事長をはじめ、根回しができない。党内に組織管理を分かっている人がいない」

こうした現状を好機と見た自民党は、憲法改正の発議などをにらみ、水面下で切り崩し工作を行っている。

「離党、6月までに決断できませんか？」

2月下旬、民進党の若手議員は自民党の中堅議員から促された。この自民党議員とはすでに複数回の接触を重ねていた。民進党にいても閉塞感はあるが、離党しても展望が開けるのか分からない。この議員は迷ったままだ。複数の民進党議員が同様に離党の打診を受けている。

遠心力と党外からの触手。7月の都議選に向けて、民進党を取り巻く環境はさらに厳しさを増すことになりそうだ。(敬称略、おわり)

この連載は、藤原健作、工藤淳、高田育昌、佐藤竜一、重松浩一郎、淵上隆悠が担当しました。



### 民進党の主なグループ

グループ名	中心メンバー	人数
凌雲会	前原誠司・元外相	約25人
サンクチュアリ	赤松広隆・前衆院副議長	約20人
旧維新グループ	江田憲司代表代行	約20人
素交会	大島敦衆院議員	約15人
自誓会	細野豪志代表代行	約15人
創新会	松野頼久衆院議員	約15人
花斉会	野田幹事長、蓮舫代表	約10人
民社協会	高木義明・元文部科学相	約10人
	玄葉光一郎・元外相 安住淳代表代行	約10人
国のかたち研究会	菅直人・元首相	約10人
国軸の会	長島昭久・元防衛副大臣	約10人
	馬淵澄夫・党選挙対策委員長	約5人

※空欄は団体名のないグループ。読売新聞社調べ

## グループ掛け持ち可

民進党のグループは、民社党や社会党など過去の政党の流れをくむものと、野田幹事長や細野代表代行、前原・元外相ら代表選に出馬した議員を中心に結成されたものがある。

自民党の派閥が原則として掛け持ちを認めないのに対し、民進党のグループは掛け持ち可能だ。政治資金の配分やポストの調整などにも原則関わらないが、選挙互助会的な機能はあり、緩やかな関係に特徴がある。代表選では各候補が、グループの取り込みを図るが、グループとして統一行動を取らない例もしばしばだ。